

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	<小・24> いわき市立 川前 小学校			
<実施日>	平成28年6月30日(木)			
<実践教科等> <small>※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。</small>				
1 理科	<input checked="" type="radio"/> 2 学級活動	3 総合的な学習の時間	4 その他 ()	
<実践内容>				
<p>1時目</p> <p>○ねらい 放射線の性質とその特徴について正しく理解し、健康で安全に生活しようとすることができる。</p> <p>○学習活動</p> <p>①「放射線はこわいか、こわくないか」を自分の立場を明確にして、その理由を交流し合う。</p> <p>(1) 放射線の性質や放射線の有効活用の事例を紹介 (2) 原爆の被害、福島第一原発の事故の状況紹介</p> <p>② 自分の身のまわりの放射線量について知る手段について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や仮置き場に設置されている放射線測定器 ・テレビのニュース 　・はかるくん(放射線測定器) 				
<p>2時目</p> <p>○ねらい 自分の身のまわりの放射線量を調べ、放射線量が身のまわりにあること、線量が場所によって異なることを実感することができる。</p> <p>○学習活動</p> <p>① はかるくんで学校の敷地内の線量を測定し、図にまとめる。</p> <p>(1) 霧箱実験の動画で、放射線がとんでいる様子を確認する。 (2) 測定方法を確認し、学校の敷地内の線量を測定する。</p> <p>② 高線量地域を行き来していた教頭の話を聞き、放射線の知識を得ることの大切さを知る。</p>				
<成果>				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 放射線が「こわい」「こわくない」という立場でその根拠や理由を伝え合うことで、基本的な放射線についての知識(目に見えない・物を通り抜ける等々)が確認できた。 ・ 実際に放射線測定器を使って身近な場所の線量を測ることによって、放射線が身のまわりにあることが実感的に理解できた。 ・ 身のまわりの放射線について、興味関心を持つことができた。 				
<課題>				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 放射線について「こわくない」と答えた児童が大半だった。放射線がいろいろなことに利用されていて役立っている側面と、原爆や福島第一原子力発電所の事故などで大量に放出されたという危険な側面のどちらを強調するかによって、児童の感じ方が変わってくると感じた。 ・ 現段階で分かっている放射線についての知識の他、これから分かってくる新しい研究にも目が向くようにさせていくことも必要である。 				
資料作成担当者職(教諭) 氏名 (遠藤 浩美)		学校電話番号 (84-2211)		

【資料作成上の注意】

1. 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
2. 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先 : kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)